









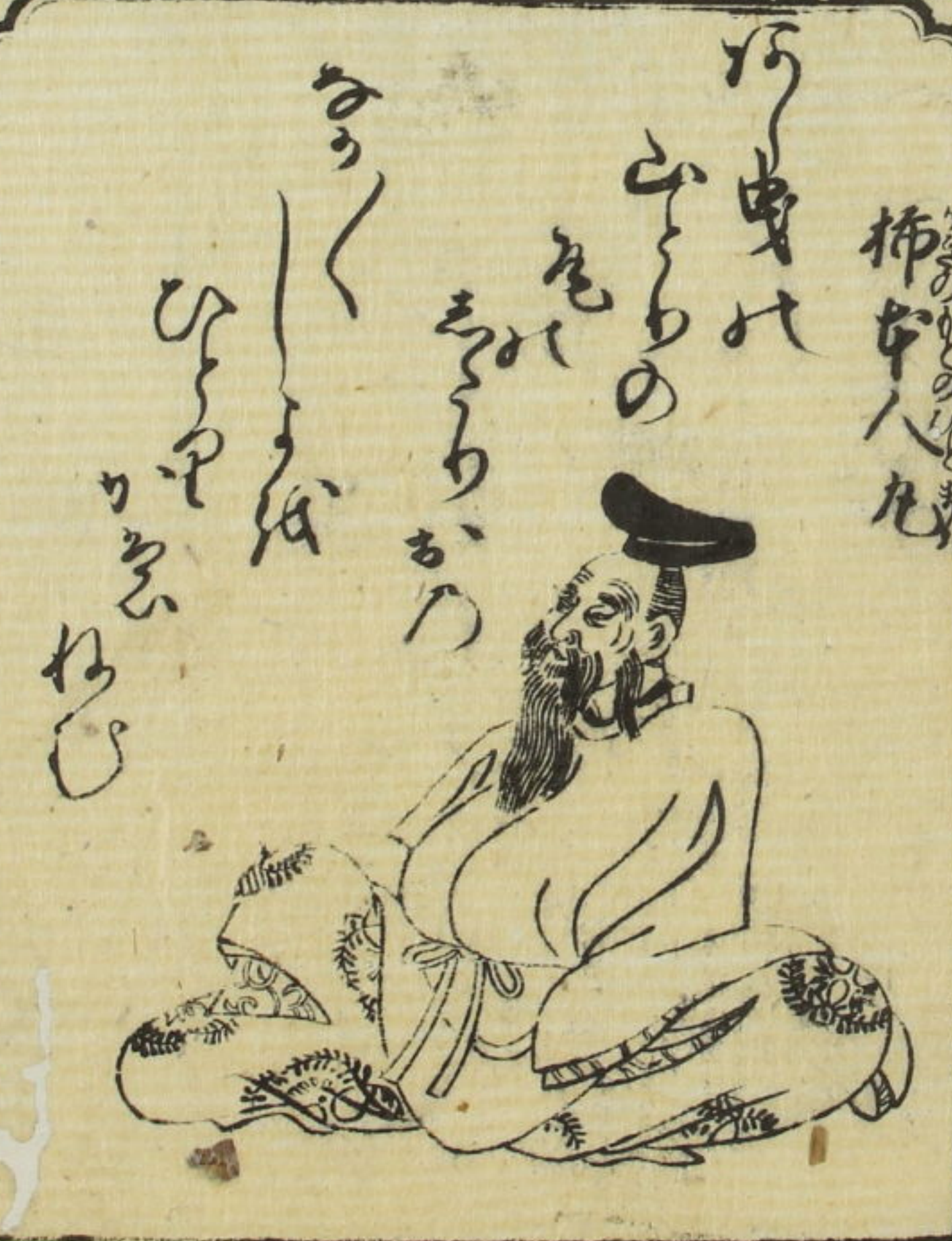




おのひらき... 衣の... 新古... 新勅... 新古今...

柿木人麿 天智天皇の御時ノ... 新勅... 新古今...

柿木人麿 天智天皇の御時ノ... 新勅... 新古今...

















陽成院 諱ハ貞明清和天皇才一也其母在の  
皇太后藤原高子<sup>号二貞觀十年十二月十六日</sup>

降誕天曆三年九月九日崩在位八年<sup>十一年</sup>

世帝ヲ二茶院ト号スル院ヲ三皇孫テ皇院ニ號ス

後撰集十一卷三 詞也よつりとのことよつり

らりと雨の玄旨云はくむ心なきの川皆き陸の

若くはの心あふふ心ひ初しうのうさか

けりやうらやとあのみすがたうらうらとく 街と

がらふと入あふい川の末は橋河へあつとま

つたひのわらわのトとらつとく河ももも

一滴づつ流れてすまの河とをれたるよて序あ

らうこの心大略はるく春の心あはるく公西白くを

天子の心あはるくかの心もあはるくわさの心あはるく

とありあはるく天下のうさかてとありあはるく

いひあはるくいへいへいへあはるくあはるく

まがれはあはるくあはるくあはるくあはるく

入楚則無底

高山起一塵 白樂天

千里始足下

源朝 嵯峨才十二源氏母正四位下大原金子於

六茶河原院 換塩電浦

嵯峨天皇 仁明天皇

古今集十四卷四の四のそとをよれかろあよ

とありあはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

あはるくあはるくあはるくあはるく

陽成院

けいこう

かほ

まの

川

けい

せい

た

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ

わ













権名玄判又六儀時...系圖見遍昭之下...  
 遍昭...法師...法師ヨフヨケレトテ法  
 師ニシテヨシ大和物語ニアリ

古今集才十四巻...  
 の月とまらむか...  
 今とんといひ...  
 まらむか...  
 今とんといひ...  
 まらむか...



素性法師  
 今とんといひ  
 まらむか  
 月  
 の  
 影  
 さらむか



先補不見字文...  
 成院内侍人...  
 古今集秋下巻...  
 康秀が家集...  
 月...  
 今とんといひ...  
 まらむか...



文屋康秀  
 吹くよ...  
 今とんといひ  
 まらむか  
 月  
 の  
 影  
 さらむか

吹くよ...  
 今とんといひ  
 まらむか  
 月  
 の  
 影  
 さらむか



伊豫守正五位下或後五位下内卷元  
平城天皇 阿保親王

大江音人 千里 五男


古今集秋上。詞云。是負のまの家のま  
合のまことあり。去旨日月ハ陽の氣カレハ  
うまの和もく。月ハ陰の氣カレハうま  
るまもかもし。まわりれもすむひのま。ま  
らぶまおくもく。あつれもすむひのま。ま  
し。まわりれもすむひのま。ま  
選のくまら。まわりれもすむひのま。ま  
天下万民の情もて。ちるま。まわりれもすむひのま。ま

燕子樓中霜羽夜 秋来只為一人長  
大底四時心惣苦 就中腸断是秋天  
菅原相西内三九月十三夜ノ詩ノ結句ニ  
随見随聞皆慘慄 此秋独作我身秋  
月るま。まわりれもすむひのま。ま

月さし  
あはれ  
ほろろ  
ひららの  
あはれ



菅原



天照八神才二子天照大神 天照太皇太后は土師連天孫也天穗日  
命天孫四世孫野見宿禰天孫命に天皇天孫内守賜  
土師臣姓二世孫身臣仁徳天皇天孫改賜  
土師連姓十一世孫右人ホ天平元年六月九  
五日改賜菅原姓

菅原



今の水野の天孫也。巨儒として詩文に達し。  
ましくわあまもく。まわりれもすむひのま。ま  
後者来く。後儒よま。まわりれもすむひのま。ま  
と稱して風教白樂天白居易は似たりとひたるま。ま  
後述集は菅原大内守菅原大内守の詩也。まわりれもすむひのま。ま  
久々の月のま。まわりれもすむひのま。ま  
古今集霧凝初。初ま。まわりれもすむひのま。ま  
る時。まわりれもすむひのま。ま  
の由幸。まわりれもすむひのま。ま  
く。まわりれもすむひのま。ま

林のま













是則 大内記 従五位下 加賀 今由書所 移り  
 坂上田村丸 廣野 當常 好齋

古今集才六冬方 何れも大和のふにまればと  
 けのゆめはし 朝且朝朗 明且と云はれしわさか  
 らけと後 里とわさかといふは 月の月と  
 なつてこふは 月の月と云ふは 月の月と  
 るゆめは 月の月と云ふは 月の月と  
 るゆめは 月の月と云ふは 月の月と  
 るゆめは 月の月と云ふは 月の月と  
 るゆめは 月の月と云ふは 月の月と



坂上田村丸  
 好齋  
 月の月  
 月の月  
 月の月  
 月の月



春道列樹

文章博士 正六位上 壹岐守 出雲守  
 ▲古今集才五秋下 詞云 何れも大和のふにまればと  
 けのゆめはし 朝且朝朗 明且と云はれしわさか  
 らけと後 里とわさかといふは 月の月と  
 なつてこふは 月の月と云ふは 月の月と  
 るゆめは 月の月と云ふは 月の月と  
 るゆめは 月の月と云ふは 月の月と  
 るゆめは 月の月と云ふは 月の月と  
 るゆめは 月の月と云ふは 月の月と



山川は風の  
 春道列樹  
 月の月  
 月の月  
 月の月  
 月の月



風は風の  
 春道列樹  
 月の月  
 月の月  
 月の月  
 月の月



奥風 或説下総権守 正六位上 治平少丞  
磨 濱成 永谷 道成  
奥風

古今集才七雜上歌よきものもい  
老ねよりのうさあぐつる時なり  
いついゝ朋友も若うらうせそ我ひら  
かへこれい友のらうらう人もあ  
けす糸のたを幸ひしそのまれば  
こそ我友のたを幸ひしそのまれば  
もを喜しくわくも松の古今不変にわ  
をも我にひきくを友とていなり。松  
いとすていれりるもいれりるも  
わわ又も松の山の松あていれりる  
もおまのやいれりるもいれりるも  
べーこの松の尾上の松はよりりる  
去有のえ下の松の松あていれりる  
あていれりるもいれりるもいれりる  
いれりるもいれりるもいれりるも



紀貫之 古今集よけ下所 権判 撰目 去番頭 従五位上 童名阿古久曾

古今集才七雑上歌よきものもい  
老ねよりのうさあぐつる時なり  
いついゝ朋友も若うらうせそ我ひら  
かへこれい友のらうらう人もあ  
けす糸のたを幸ひしそのまれば  
こそ我友のたを幸ひしそのまれば  
もを喜しくわくも松の古今不変にわ  
をも我にひきくを友とていなり。松  
いとすていれりるもいれりるもいれりるも  
わわ又も松の山の松あていれりる  
もおまのやいれりるもいれりるも  
べーこの松の尾上の松はよりりる  
去有のえ下の松の松あていれりる  
あていれりるもいれりるもいれりるも  
いれりるもいれりるもいれりるも



深養父 從五位下内匠冠 截人所 雜色  
 先祖不覓 一説豊前守 房則男 一説筑前守  
 海雄探房則子

古今集才三 方家 御世 月の西よりわたりぬ 時  
 こゝろあるはかり びんこまきり 青とりのひのめ  
 わくや月とすきり 青とりのひのめ 青とりのひのめ  
 青とりのひのめ 青とりのひのめ 青とりのひのめ  
 とみよきり 青とりのひのめ 青とりのひのめ  
 青とりのひのめ 青とりのひのめ 青とりのひのめ  
 青とりのひのめ 青とりのひのめ 青とりのひのめ  
 青とりのひのめ 青とりのひのめ 青とりのひのめ  
 青とりのひのめ 青とりのひのめ 青とりのひのめ



深養父  
 月夜  
 月夜  
 月夜

文屋朝康

先祖不覓 文屋康秀男ト云 延表之比人  
 一説或説云 延表二年任大舍人 先云

古今集才六 秋の中 延表の御内  
 吹とるをいふ 吹とるをいふ 吹とるをいふ  
 吹とるをいふ 吹とるをいふ 吹とるをいふ  
 吹とるをいふ 吹とるをいふ 吹とるをいふ  
 吹とるをいふ 吹とるをいふ 吹とるをいふ  
 吹とるをいふ 吹とるをいふ 吹とるをいふ  
 吹とるをいふ 吹とるをいふ 吹とるをいふ  
 吹とるをいふ 吹とるをいふ 吹とるをいふ



文屋朝康  
 延表  
 延表  
 延表



延表  
 延表  
 延表

右近 右近少将藤季繩女此季繩号交野將

も右近少将の女方の心は右近と云ふ

△拾遺集才十四卷四四巻に云く右近の心は

知たかたの心も今も故かんと云ふの社をいけ

て葉言くはる男の心もあかきまをいへる時よ

りのあかき人こそわつらつていへる物つらきもの

人と云ふはれはよす物もの心のわかつたわ

かり物つらきもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

等 義濃守 九中井 勘解由九官天曆五年

三月十日 薨 七十三

嵯峨天皇 弘 希

等 頭三木正 四世下

△後撰集才九卷の一人まうりくくくくくくく

とくくくくくくくくくくくくくくくくくく

小野の藤原と云ふ事そのわつ小野の藤原と云ふ

にわつと云ふ事そのわつ小野の藤原と云ふ

のわつと云ふ事そのわつ小野の藤原と云ふ

又眼と云ふ事そのわつ小野の藤原と云ふ

皆を我かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

右近

わつらつていへる物つらきもの

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ



等 義濃守

わつらつていへる物つらきもの

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ



わつらつていへる物つらきもの

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ

かたかたはらもの心もいへるもの心もいへ











謙徳公 一条坊政伊尹公 九条右丞相師輔公 男  
 女武藏守経邦女天禄三十二薨三十九  
 此公後撰集と撰り内蔵人女初と和方  
 奉り謙徳公の諡有太政大臣の官官と  
 と久必立と一國封せらる仍中右以来  
 必薨ぶる時録退むる

貞信公 師輔 伊尹 謙徳

「義孝 行成

△拾遺集才十五五調去よそのひゆわ  
 の板まつせれくはくまよむもゆり  
 とわりちのぬりしちのよまぬま  
 らぶくとちふりまるとこれるを  
 まど。能わりまふちと長とあぶ  
 えどして。我方ののまよまわ  
 ちげきまかかむぬまかあ  
 不不のままかあむれら  
 まハ世ののくとまゆれ  
 塵ハつれまか



謙徳公  
 わりれまふ  
 人のあは  
 能の  
 なるぬま



曾新好忠

寛和の比の人ま任丹波掾 仍号曾新



曾新好忠  
 中  
 私  
 なるぬま  
 なるぬま

△新古今集才一巻あり。歌あ  
 わり。中良の後の紀伊あなり。ま  
 云いゆりの後の海ありま  
 大海とわらふの梶か  
 うのふま  
 ののむら  
 ゆりのく  
 かのゆかり。梶  
 ま  
 かのゆかり。梶  
 梶  
 梶



梶  
 なるぬま  
 なるぬま



































柘子 紀伊 金葉 一宮 紀伊より同人 紀伊守

皇孫 妻タリ故 紀伊ト云

桓武天皇 葛原親王 高棟 惟範 時望

貞林 親信 行義 範肆 経方 女 紀伊

柘子内親王 後朱雀院ノ皇子 後三条院 兄才云

○紀伊ラキトハナリヨム 柘津ヲツトハナリヨム 月也

▲金葉集才ハ多ク 堀河院の御時 皇女に云 後忠

人ト云 ねむらひのうらみ 後忠の御時 皇女に云

と云 ありの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

けしきの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

わづらひの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

あはれみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

うらみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

神の御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

と云 ありの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

あはれみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

うらみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

神の御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

と云 ありの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

あはれみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

うらみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

神の御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

と云 ありの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

あはれみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

うらみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

神の御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

と云 ありの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

あはれみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

うらみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

神の御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

と云 ありの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

あはれみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

うらみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

神の御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

と云 ありの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

あはれみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

うらみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

神の御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

と云 ありの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

あはれみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

うらみの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

神の御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

と云 ありの御時 皇女に云 後忠の御時 皇女に云

柘子内親王 紀伊

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

柘子内親王 紀伊

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

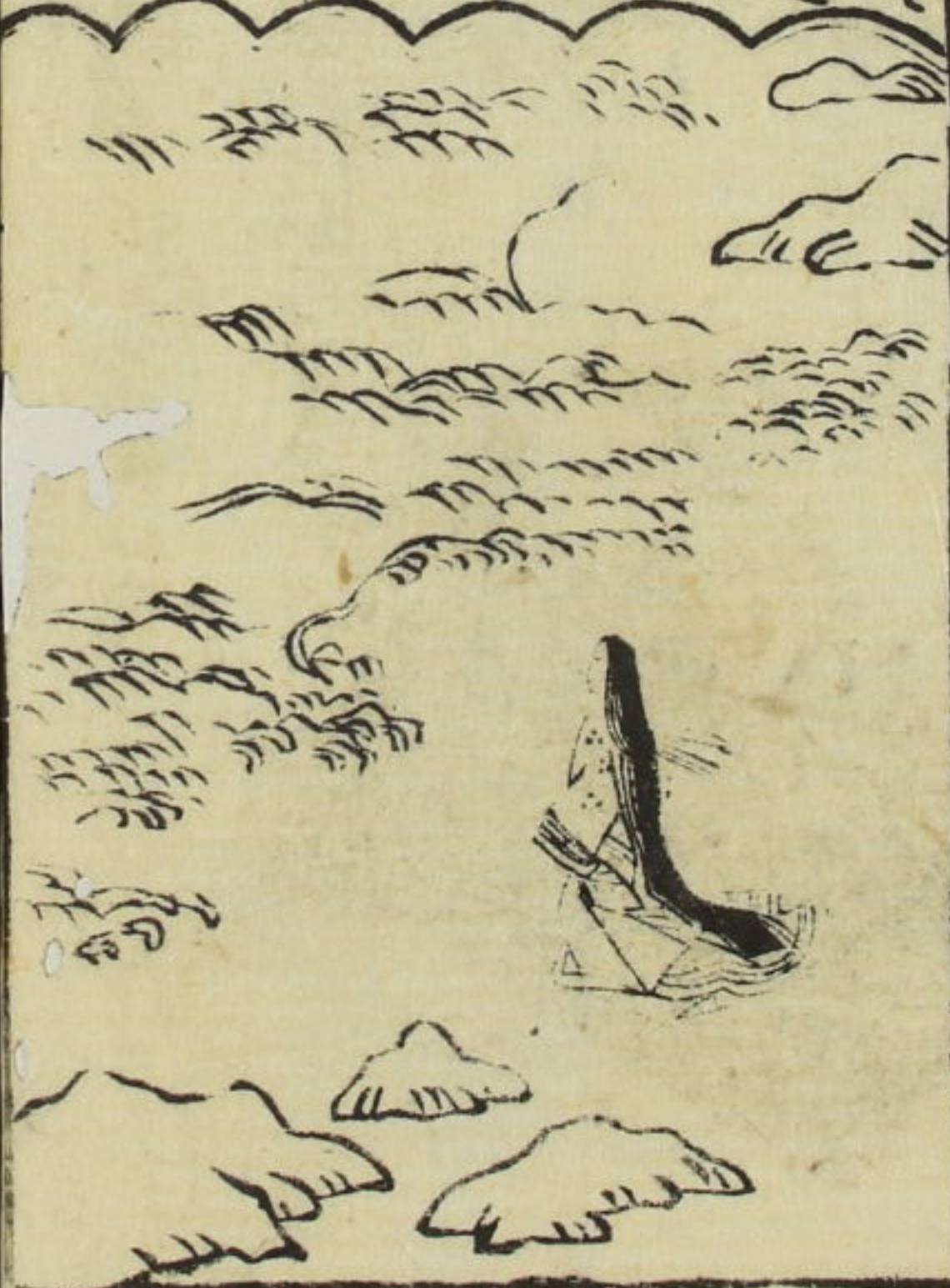
うらみの御時

神の御時

と云 ありの御時

あはれみの御時

うらみの御時

















後意 他信の疎後れお民のまゝ系高前アリ

△千載集才十二卷前二卷ありとてあるとわらひ  
あまふと云ふ不よく味づべしとすすくは後取し人  
づれなき程は物ありしわらびさうならしむとけ  
物れとせとく物ちつ時言はれとく物ほ  
とかりふいとく物やぬかしすれは人そわらめ  
く物やのひまふ入ぬぐくつれささいいうわで  
くわつぞとくしとく物そとくもくもくのか  
かゆいひまふ入ぬぐく家紙云物やのひまふ  
とく物やのひまふ入ぬぐく物やのひまふ  
はらふわらうじむぐさの物やうとく  
まのひまふその面けはすすく。意紙のまひい  
物やのひまふ入ぬぐく物やのひまふ  
心城久世のわらわは福田もといひしは後意法師の  
物やのひまふ入ぬぐく物やのひまふ  
つとわらわて足れいといわれさうてさうぐく  
わらわのわらわらう



後意法師

わらわのひまふ  
つれあわらわ

又ハ泰清をね院下小面  
藤成—豊澤—林雄—秀卿—千常  
文修—文行—公光—公清—秀清  
康清—義清 右兵衛尉法名四位

△千載集才十五卷前五月前巻とてあるとわらわ  
わらわのひまふ入ぬぐく物やのひまふ  
まのひまふその面けはすすく。意紙のまひい  
物やのひまふ入ぬぐく物やのひまふ  
心城久世のわらわは福田もといひしは後意法師の  
物やのひまふ入ぬぐく物やのひまふ  
つとわらわて足れいといわれさうてさうぐく  
わらわのわらわらう

西行法師

わらわのひまふ  
つれあわらわ



樂天贈内詩よ莫對月明思往事損君顔色減君年  
云々是樂天の女房へ送るる物ぞれはけ侍りわらわ  
かたがら











権中納言定家 後成マノ男ノ号京極中納言  
 入道 母若使守頼忠ノ女ニ養福門院伯耆上  
 云レ入ノ初藤原為經ニ嫁テ澄信ヲ生トシ  
 定家マノ年譜ハ上巻九例ノ下アリ

△新勅撰悉終ニ建保六年丙申春命命也云々  
 八万尋のちあふまふかのうのちさきにむもり  
 つたふさびりかやうとともあれ公言言云  
 ぬ人とまつたゆと必一日のうちにゆきま下  
 るごととむつは風もあき夕へきいさむやく  
 もまへると我もいのみゆり切切なりによきて  
 ありしぬ人とまふかのうれ夕あざむとて  
 やくやりのみとつげかもしりつくとりま  
 九倍とくられも視つといふゆのれまよのやう  
 えかよおおまもまもいねむとくまごとの  
 細のうらむとせりけりいあむ一宗紙云黄門の  
 いくらのあまへまに中よわたせば百首のせら  
 るるるるるるるるるるるるるるるるるる  
 さぐらあふさささささささささささささ  
 運こまの切かりるるるるるるるるるる

從二位家隆 前大納言太宰権帥光隆三男早生

生二位宮内卿新古今撰者立人内也本名雅隆母  
 太皇太后宮亮實兼朝臣女也俊成御門内少輔

蓮法師ノ智也

兼補 利基子中納言刑部卿為頼太皇太后宮亮

伊祐 讚岐守 頼成 目備守 清經 少輔 隆時 目備守

清隆 中納言 頼成 中納言 光隆 中納言


家隆 從二位宮内の上総守 隆祐

△新勅撰悉終ニ建保六年丙申春命命也云々  
 八万尋のちあふまふかのうのちさきにむもり  
 つたふさびりかやうとともあれ公言言云  
 ぬ人とまつたゆと必一日のうちにゆきま下  
 るごととむつは風もあき夕へきいさむやく  
 もまへると我もいのみゆり切切なりによきて  
 ありしぬ人とまふかのうれ夕あざむとて  
 やくやりのみとつげかもしりつくとりま  
 九倍とくられも視つといふゆのれまよのやう  
 えかよおおまもまもいねむとくまごとの  
 細のうらむとせりけりいあむ一宗紙云黄門の  
 いくらのあまへまに中よわたせば百首のせら  
 るるるるるるるるるるるるるるるるるる  
 さぐらあふさささささささささささささ  
 運こまの切かりるるるるるるるるるる

えらうおえささ  
 権中納言定家  
 こぬんと  
 まのかの  
 うつれ  
 夕あさ  
 風くや  
 りほの  
 かしこれつ



後二位家隆  
 風そよぐあは  
 小川の  
 夕あさ  
 なわ  
 くら



後二位家隆  
 風そよぐあは  
 小川の  
 夕あさ  
 なわ  
 くら



風そよぐあは  
 小川の  
 夕あさ  
 なわ  
 くら



後鳥羽院 諱尊成高倉院才四皇子母贈左大臣信隆女植子七条院上申久治美四七十四降誕壽永二八廿踐祚四歲 同三月即位 太政官廳 文治五正三元服一歲 建久九十一讓位十九歲 在位十五年 美久三七八於鳥羽殿御出家 法諱良然 同月十三日奉移隱岐國 延徳元元元二月崩 六十一歲 於隱岐國 同五月廿九日可奉号 顯徳院 之由宣下 仁治三七八以顯徳院可奉号 後鳥羽院之由重被成宣

系焉 式子内親王ノ下 見一タリ

續後撰小のり 後鳥羽院集 述懐の部 中 公方くもてハ世も賢哲の埋れらもわろくも惜とて 人ももろくも 位小わりのし 徳ももわろくもろくも 世もあつた天下る民の安寧をらんるも 徳もあつた 徳の及ぶるものと 万葉のまじり 天下と 徳の仁愛のふと 後鳥羽院は 民を安んじ けり 徳の及ぶるものと 徳の及ぶるものと 徳の及ぶるものと 徳の及ぶるものと 徳の及ぶるものと 徳の及ぶるものと

順徳院 諱守成後鳥羽院才二皇子在位十一年 母修明門院藤原重子 贈左大臣範季 正治二年十月五日立太子 四歲 美元四年十一月廿五日受禪 十四 美久三年四月廿日讓位 同七月奉移佐渡國 仁治三九十二崩 才佐渡國四十六歲

後白河院 鳥羽院才四皇子在位三年 母待賢門院

二條院 才一宮在位七年 母右大臣經宗

高倉院 才三宮在位五年 母建春門院亮子

殷富門院 才一皇女 母從三位成子

式子内親王 才大炊内院院 又菅院

安徳天皇 才一宮在位三年 母平清盛

後鳥羽院 才四宮在位五年 母淡左大臣信隆

土御門院 才一宮在位十二年 母内大臣通親

順徳院 才二宮在位十二年 母贈左大臣範季

續後撰集 子題不知とわり 去昔云 百あやし かり ちん 五又字 六く みるく のや 小う や ちん 云





初は...の...も...の...  
 此の...の...も...の...  
 左傳云、都城過百雉、國之害也。と云。杜預、雉、方丈、曰雉、一雉之牆、長  
 三丈、高一丈、ト云。羽湯の志の...  
 三丈高一丈ト云。羽湯の志の...  
 けさ...の...の...  
 依...の...の...  
 足...の...の...  
 ぞ...の...の...  
 び...の...の...

享保六年辛丑春開板  
 文化貳季丙戌冬求版

大坂書肆 心齋橋通  
 河内屋嘉兵衛  
 増田屋源兵衛

百人一首作者部類

天子八人

天智天皇 持統天皇  
 三條院 崇徳院

陽成院 光孝天皇  
 後鳥羽院 順徳院

親王二人

元良親王 式子内親王

貞信 謙徳

法性寺関白 後京極攝政

大臣五人

河原左大臣 三條右大臣  
 鎌倉右大臣 入道前太政大臣

後徳大寺左大臣

大納言二人

公任卿 經信卿

中納言七人

家持卿 行平卿

兼輔卿

敦忠卿

朝忠卿

匡房卿

定家卿

仲磨卿

篁卿

等卿

推經卿

道雅卿

顯輔卿

俊成卿

家隆卿

在原業平

藤原敏行

源宗干

大中臣能宣

藤實方

藤原道信

源俊賴

藤清輔

藤義孝

藤基俊

九河内躬恒

壬生忠岑

文屋康秀

大江千里

紀友則

藤具風

坂上是則

春道列樹

文屋朝康

平兼盛

紀貫之

清原深養文

曾祢好忠

源重之

壬生忠見

清原元輔

儀同三司母

源兼昌

女房二人

右近

和泉式部

右大将道綱母

宮女十七人

赤染右衛門

小式部内侍

小野小町

伊勢

相模

周防内侍

紫式部

大貳三位

待賢門院堀河

皇嘉門院別當

伊勢大輔

清少納言

二條院讚岐

能因

祐子内親王家紀伊

行專

慈圓

西行

殿富門院大輔

僧正三人

法師九人

惠慶

遍昭

道因

俊惠

能因

喜撰  
良選  
寂蓮

素性  
道因

惠慶  
俊惠

能因  
西行

人磨

此外四人

赤人

猿丸大夫

蝉丸

菅家

父子或三代入作者

此内不入作者細字書之

天智天皇

持統天皇

遍昭素性

忠岑

忠見

陽成院

元良親王

三条右大臣

朝忠

康秀

朝康

後鳥羽院

順徳院

清輔

顯輔

謙徳公

藤原義孝

俊成

法性寺園白

後法性寺園白

後京極攝政

寂蓮

定家

前大僧正慈圓

公任

定頼

和泉式部

小式部内侍

經信

俊頼

俊惠

紫式部

大貳三位

行平

深養父

元輔

清少納言

業平

頼基

能宣

輔親

伊勢大輔

Handwritten red notes and markings in the top left corner of the page.



明法甲辰正月二十日

芝峰書

八幡宿  
川上元子